昭和十四年一月一日　磐城特報（日曜日）第七千三百九十四號【一】
（第三種郵便物認可　大正八年三月七日）

謹迎國威宣揚之春

夕刊
磐城時報
一日發行
編輯兼發行人　岡田弘成
印刷所　磐城時報社
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ケ月金拾錢
廣告料一行十四字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

事變下に再び新年を迎ふ

皇紀二千五百九十九年の新春を迎へて、皇祚の無窮と皇國の盛運を慶祝し、併而遠く外地に在る鄕土將兵の勞苦を感謝し武運長久を禱らなければならぬ。武漢三鎭は既に陷ちたが東亞民族永遠の平和のために起つた無敵皇軍は更に鋒を休めることなく抗日政權覆滅に向つて不撓邁進を續けつゝある。而も澎湃として起る支那民衆の正しき要望は新らしき支那の建設に趨き其の民を新たにし、其の治を改めんとしてゐる。此の二つの事實は遂からずして東亞の眞の平和が將來することを約束するもので、昭和十四年の新春は即ち輝かしき光明の近づきつゝある黎明の空を迎ふるの感がある。

斯の光輝ある且つ意義深き新年を迎へ吾等はその意氣を新たにし、その力を愈々揮ひ、結束は益々堅くし以て長期建設の道に向つて進まなければならぬ。今次の事變たるや、我國建國以來の大事件で、肇國の精神も、明治維新の精神も、皇國三千年の凡ての精神が凝つて此處に煥發せんとするものである。日本歷史あつて以來未曾有の今事變に遭遇し得たる我等は日本國民としての名譽を現實化し得る最も惠まれたる時期に生きる光榮を擔ふたのである、我等はこの故に其の盡すべき責務の重大さを畏々も認識し、百難萬苦凡て克服し去るの大元氣を以て事變に對處せねばならぬ。凡そ人と生れて斯の如き重大時局に際會したことは一面以て快事とも云ひ得る、晏眠樂居のみを事とするは人間に生れた眞の幸福とは云へぬ。よく働らき、よく凌ぎ、よく盡し、よく爲じてこそ生き甲斐のある生活である。我等にとつて今こそ最も生き甲斐ある生活を爲し得る時であり、また爲さねばならぬ時である。こゝに事變下第二次の新年を迎へて、皇國大使命の貫徹に協力するの光榮を謝し其の實踐に邁進せんことを誓く誓ふものである

昭和十四年元旦

磐城時報社

松本孫右衛門
東京市下谷區谷中清水町

三井榮一
東京市麻布區本田町立石

安藤七寶店
安藤善親

東京女子洋裁學校
校長　渡邊豐重

貴族院議員　金成通

衆議院議員　比佐昌平

衆議院議員　星一

平市長　青沼鋒太郎

平警察署長
警視　本田勇治郎

石城郡產馬畜產組合長
安島重三郎

大浦村長
木村清治

小名濱町長
縣會議員　小野晋平

縣會議員
平市會議長　野崎滿藏

平消防組頭
縣會議員　關内正一

縣參事會員
平市會副議長　蓮沼龍輔

縣會議員　草野三郎

縣會議員　小松章

縣會議員　早川清久

福島縣齒科醫師會長
平市會議員　萩原義雄

市政發展に邁進

青沼市長年頭の辭より

我が平市政の昭和十三年を回顧すれば市政實施直後の建設時代であり万全の方策を以て鋭意諸般の施設遂行に努力邁進を要するの秋、支那事變は益々擴大進展し爲に時局の影響鮮少ならざるものありしと雖も概して大なる蹉跌を見ることなく着々として既定計畫の施設經營圓滿裡に進行しつゝあるは御同慶に堪えざるところであります、就中躍進大平市を象徴し文化の殿堂たる公會堂は當初豫算額八万圓を以て計畫着工したるところ物價勞銀昂騰に依り約四萬圓の增額追加を必要とするに至り市民各位の熱誠なる協力と理解ある篤志家の援助とに依り豫定の如く進行を見まして客年十月三日竣功式を擧行以來年末迄の利用回數實に六十五回に及び社會文化の進展に寄與するところ頗る大なるものあるは誠に欣快に堪へざる所であり附屬日本館亦年末に竣工を告げたるを以て將來之が利用は從前に倍加するに至るべきを信ずるものであります。

次に第四小學校講堂並に校舍增築工事は客年七月十五日功を竣り蓄平窪村多年の懸案を解決し國民教育の伸展に將又各種集會に善用せられ社會文化の發達に貢献する所大なるものあるは深く喜びとする所であります、又市民の待望する市立商業學校の新築は總工費金十一萬四千五百圓を以て既に着工し明年度新學期開始前に竣功の豫定を以て進行中であり又第五小學校敷地に充當すべき場所も夫々手續を完了し之が埋立工事中であります

更に社會事業方面に在りては公益質屋の經營を企圖し手續中の處、客年十月二十七日主務大臣より之れが設置認可を得、建築及運用金起債許可申請に付て目下主務省に於て審議中なるを以て近く其の指令を俟つて之を施設、教育設備の改善、市民の体力振興並に保健衛生に關する施設の完備、隣接村の合併等の重要案件は何れも其の內容を爲すものでありまして之が解決の方途は須らく各會派、各階層の相剋摩擦を除去し全市民渾然一体、りく力協心以て目的の達成に邁進の要あるを確信する次第であります、而して是等事業の遂行には人的要素に俟つの要あるは勿論であるが一面には物的要素たる健全財政の上に立脚することが極めて肝要でありまして特に時局下にありて物資統制の強化と起債の抑制並び行はるる今日に在りては一層その感を深くするものであります、而して健全財政の確立には其の源泉たる市民經濟力の培養充實に俟たねばならぬことは今更申すまでもない所であります、

今や時局は益々重大であり政府は國家の總力を動員して長期建設の目的貫徹に努め帝國將來の飛躍に備へつゝあるの時恰も吾等市民は躍進平市建設の大事業に直面して居るのであります

この難局を突破し其の使命を遂行することは吾等平市民に課せられたる一大試練であると申さねばなりません、職を公に奉ずると否とを問はず其の責務の重大なるを自覺し銃後の國民としての吾等は益々結束を固うして寸毫の過怠も無く不動磐石の意氣を以て聖戰の目的貫徹に邁進し以て上　聖明に應ひ奉ると同時に市公民として良く市政の將來に對し深き理解を以て躍進大平市の建設は懸つて吾々双肩に在ることを自覺し三萬三千の市民各位と共に其の業務に精勵し和衷協同以て奉公の誠を捧げ市政の圓滿なる發展向上に寄與せんことを念願するものであります。

謹奉賀戰捷昭和十四年新春

釜屋商店　諸橋久太郎
小田吉治　石城郡好間村
神谷村長　佐藤庄太郎
石城町村町會支會長　飯野村長　伊藤淺之助
植田町長　古川傳一
平製氷株式會社　專務取締役　松本一郎
植田物產株式會社　專務取締役　山崎登
平病院長　醫學博士　鈴木定藏

平市助役　伊藤秀吉
柏原幸次郎　平市三丁目　電話三八番
阿部石炭商店　阿部政右衛門
平消防組　副組頭　岡田政次郎
辯護士　眞木恒　平市字紺屋町　電話六五七番
木田織江　石城郡大野村
平產婆看護婦學校　校長　清野キヨ
中野齒科醫院　中野惠次
松竹・新興映畫常設　平驛前　世界館　電話四四六番

平庶民金庫
植田郵便局長　馬上守一
玉川信用組合長　駒木根忠三
白水炭礦會
片倉磐城製絲工場
磐城建物株式會社
植田町農會長　鷺清昇
石城郡勿來町　赤津庄兵衛

第三種郵便物認可　昭和十四年一月一日　磐城時報　（日曜日）　第七千三百九十四號【三】

本年の政界展望

興味は秋の縣議戰

顧みて昭和十三年度は地方選擧も無く、從つて政爭に依るの相剋も生ぜず全く無風狀態であつたが、兎年を迎へた今年は、六月二十五日に行はれる貴族院議員（多額納稅議員）選擧に次いで九月二十五日縣會議員が改選される、貴族院議員は縣下を通じて定員僅か二名に過ぎないため或ひは兩派協調無競爭の實現困難ならずと思ふが、縣會議員選擧は郡市を通じて候補者は多士濟々で相當熾烈な競爭が演ぜられるであらう、十四年の新春に當つて石城地方の政界を展望して見る

◇

石城郡の選擧區は平町の市制實施に依つて郡市が離脫し、市部定員一名、郡部は人口自然增加に伴ひ一名增員し六名と成つた候補者にとつては頗る割のよい選擧である

◇

市部では政友現縣議關內正一氏の立候補動かず、民政野崎滿藏氏が郡市何れとも意志を表示せず疑問符に包まれてゐる、一般的な世評は市會議長の肩書があり市部から出て關內氏と一騎打の勝負を決するものと噂され、斯くては兩氏の政治的生命を賭する關ケ原の鬪ひと成つて勝敗逆睹し難い形勢である、然し利にさとい野崎氏は平小鐵道問題などから市部の不利を自覺、退陣して郡部に廻るの說專らで、野崎派が影武者（馬目雅治氏？）を立てるとすれば、關內氏は戰はずして當選圈內の樂な選擧となるであらう

◇

郡部は定員六名に對し下馬評に上る顏振れは

政友派、小野晉平（現）、蓮沼龍輔（現）、赤津庄兵衞（新）、木村守江（新）

民政派、草野三郎（現）小松章（現）、萩原義雄（元）、比佐賢司（新）

の八名で、政友派は小野氏が中部と濱通りから、蓮沼氏は炭礦地帶を地盤に、赤津氏は郡南から前回の雪辱戰に起つことになる、赤津氏固辭した場合山崎登氏に替るか乃至は政友派必勝の建前から古川傳一氏の出馬も要望されてゐる、大勢は前回敗れた赤津氏を推し當選を期することになるらしい、關內氏が市部に廻つた關係で北部が留守に成つた爲木村守江氏の歸還を待つて北部から擁立するの意見有力で、若し實現すれば新人木村氏も相當强い候補者である、民政比佐派は小松現議員南部から、萩原氏は中部を地盤に確定的で

平市・石城郡內

醫院

鈴木耳鼻咽喉科醫院　平市田町　電話五八番

木村病院　平市新川町　電話一六四番

小林醫院　勿來町　電話四八番

難波醫院　平市大町　電話五〇二番

井坂產婦人科醫院　平市田町　電話五五九番

織田齒科醫院　平市南町　電話四一六番

明雲堂眼科醫院　平市田町　電話六六九番

實川產婦人科醫院　平市田町　電話二七〇番

市原醫院　平市田町　電話一一四番

志賀齒科醫院　平市大工町

木村外科醫院　平市六丁目　電話三〇九番

平醫院　平市五丁目　電話一九八番

森合齒科醫院　植田町　電話七一番

前田醫院　植田町　電話一二四番

若松內小兒科醫院　平市大町　電話五〇五番

原齒科醫院　平市土橋　電話三一番

高柳耳鼻咽喉科醫院　平市白銀町　電話三三六番

齋藤齒科醫院　平市田町

賀正

合名會社　田邊商店　平市白銀町（電話二九四番）

田邊製作所

平市役所
收入役　西野源次郎
主事　酒井寅之助
主事　草野常彌
主事　四家久米治

平市會議員　松崎松治
平市會議員　鈴木彌太郎
平市會議員　酒井清
平市會議員　吉田寅之輔
平市會議員　松本德一
平市會議員　荒川淺次郎
平市會議員　鈴木光吉
平市會議員　高橋亀松
平市會議員　吉田五平
平市會議員　藤田榮助
平市會議員　多田井笑次郎
平市會議員　大嶺庫
平市會議員　吉村安次郎
平市會議員　金子政通

まさに飛躍の年

昭和十四年を迎へた平市

市制實施第三年目の新春を迎へ、平市は漸やく準備時代を過ぎ、新興都市として愈々飛躍するの時期に入り、懸案の商工會議所設立問題を始め、縣立工業學校設置問題　銃後施設と產業施設の擴充、第五小學校建設計劃、市廳舍改築問題、平小鐵道路線問題等々行ふべき事業山積し、市發展への道を拓くため、市當局の努力は論を俟たず、市民の協力を要望されてゐる

商工會議所設立

市商工會議所設立問題は市制實施と同時に市商工會に依つて進められ、調査成り資料全く整つて發起人申請まで漕ぎつけながら、肝心の基礎を爲す營業收益稅額（十五圓以上）が三萬二千圓に過ぎず、四万圓の豫定額には尙相當距離があつた爲、當業者を失望させてゐたが、十三年度の査定額は相當增額し、豫定の四万圓を超過してゐるものと見られ、商工界から待望久しかつた〃平市商工會議所〃も今年中には實現可能と見られてゐる商工會では稅額決定次第直ちに具体的な準備に着手し更めて發起人申請書を提出し、會議所設立の第一歩を踏み出す譯である

市廳舍の改築

公會堂の完成に依つて市の体面は僅かに整つたが、年毎に狹隘を遂げ、繼ぎ足し繼ぎ足しで辛くも事務を執つてゐる市廳舍は外來者をして暫し讃嘆せしむる程、全國稀れに見るボロ廳舍であつて、体面上芳ばしからざるは論を俟たず、市吏員の能率上から見ても可急的速かに改築すべきものである

圖書館を作れ

市制が實施されてながら市民は文化的事業への關心極めて薄く市立圖書館の建設に一顧を與へる者さへ無いのは、子弟の教育上、或ひは市民の向學上から見ても甚だ遺憾である、市費全額を以つて建設することは、行き詰つてゐる現在の市財政に微し殆んど望み薄であるが、公會堂や商友會の商業學校講堂建設の如く、寄附金を以つて建築費に充てるの考へが市當局にあつたら決して難事でないと思ふ、殊に諸橋元三郎氏が三猿文庫を寄附するの意志を表示し、學校の圖書館など併合するの便宜があるから建築費だけの負擔で足りる譯である

社會施設として公益質屋などの設置も急を要する問題であるが、圖書館も又心の糧であつて市當局の一考を促し、これが實現を要望して止まない

工業校設置問題

常磐炭礦の中心地たる平市が遲時ながら工業學校設置問題に乘り出し、調査委員を擧げてこれが實現に邁進しつゝあるは市の發展上、喜ぶべきである、厚生省の計劃する高等工業學校を誘致する運動も一時話題に成つたが高工設置には二百万圓の寄附金と三万坪の土地無償提供が條件に成つてゐると云はれ、平市にとつては負擔が重過ぎる、平市は高工を設置して他府縣から學生を集めるよりも、地元炭礦關係と機械工業の技術員を養成する子弟が幾等でもあるから、及ばざる野心を起さず中等程度の工業學校設置に向つて進むべきであらう、縣當局も平市へ縣立工業學校の設置を希望し沼島知事自ら相談に來平するとのことで、厚生省の技術員養成計劃など併せ絕好のチャンスである

然し縣立の工業學校を建設する以上、尠なくも三、四十萬圓の建設費と相當の敷地を提供するの覺悟が必要で、炭礦地方よりの寄附金なども愼重考慮し、萬遺漏無きやう委員の調査と市當局の努力に俟つべきである

消防出初式

家庭防空群も參加
防空演習を實施

新春行事の華、平消防組恒例の出初式は一月六日行はれる、當日關內組頭以下三百一名の組員は午前六時第三小學校北側堀立地に集合、午前七時二十分國旗揭揚式を擧行後、揃ひの法被も凜々しく隊伍を組んで縣社子鍬倉神社に參拜し、皇軍武運長久と無火災祈願祭を執行する、それより組員は三班に分れて大江戸火消し名殘りの新春行事である市中梯子乘りを行ひ

午後一時再び第三小學校側の堀立地に集合、市內各區から選ばれた八組の防空群と三組の防火群と協同して大規模な模擬火災演習、燒夷彈使用の防空防火演習を行ふことになつてゐる

午後三時から市公會堂で優良組員、永年勤續組員、優良火防組表彰を行ひ簡素な戰捷祝賀の新年宴會を開く筈である

戰捷祝賀 新年會

參會千余名の盛況

平市の戰捷祝賀新年會は一月一日午前十時から市公會堂で開催開式、國歌合唱、御眞影奉拜に次いで靑沼市長の年頭の辭、會員有志の新年祝詞があり　天皇陛下萬歲奉唱、皇軍將兵萬歲三唱を以て式を閉ぢ安に移るが戰捷第二の新春を祝して參會者は千名を突破する未曾有の盛會ぶりであつた

縣農事試驗場　神谷分場
平保健所長　靑沼淡夫
平稅務署長　川鍋孝藏
平職業紹介所長　立澤高元　外一同
夏井川改修事務所長　高橋恒吉
平土木監督所長　須藤清藏
縣稅務出張所長　丹野才治郎
平驛長　立枝信勝
石城學校長會　石城町村長會
石城郡好間村長　金成淺治
石城郡江名町長　作山一枝
石城郡鹿島村長　志賀直哉
石城郡勿來町長　横山太一
石城郡湯本町　町長　仲里顯太郎　助役　矢吹莊司
石城郡內郷村長　沼田濱之助
石城郡山田村長　秋山藏之助
石城郡高久村長　鈴木喜太郎
石城郡夏井村長　渡邊泰衡
石城郡豐間村　山野邊茂五郎
石城郡江名町長　作山一枝
石城郡好間村長　金成淺治
諸石材彫刻　山野邊大五郎　平市紺屋町
平市四丁目　伊勢屋商店　電話四五番
平市田町　小川洋服店　電話五七〇番
宮川理髮店　宮川幸吉
堀藥局　藥劑士　堀功　平市二丁目　電三二六
玉屋洋品店　平市田町　電六五六番
平市紺屋町　高木製綿所　電話四四二番
平市新川町　谷屋呉服店　電話四三七番
平市三丁目　大黑屋　電話一一六番
喪中缺禮　佐川洋服店　平市三丁目

卯歳生れの人々

青沼老市長を筆頭に働らき盛りの名士が多い

今年は卯歳である、卯歳生れは安政二年の八十五才、慶應三年の七十三才、明治十二年の六十一才、明治二十四年の四十九才、明治三十六年の三十七才などだが市内の名士のうちからそれらの人々を選んで見るとざつと次の通りだ

先づ安政二年生れの八十五才では長橋町の海産物商關與三郎さんがある、慶應生れでは青沼鉾太郎、田町の市原卯太郎、新川町諸橋國松、一丁目小原喜八の諸氏がある、青沼さんは云はずと知れた大平市の市長で今年七十三になつたが老いて益々さかんに市政のために東奔西走してゐるのは涙ぐましい限りである

市原さんは昨年物故した酒井國三郎氏と共に平市醫師界の草分けで青沼老市長とは親戚の間柄に當る、小原さんは醤油味噌の老舗會津屋の主人で、これも老舗として知られる—諸橋呉服店の主人が諸橋國松氏である。明治十二年生れの六十一才と二十四年生れの四十九才となると働らき盛りだけに人材が多い、六十一才組では二丁目中野洋品店主中野庄吉氏、久保町の元町議荒川恒次郎氏、元平窪村收入役で現に平窪信用組合長の鈴木忠三郎氏などさうだ、中野氏は四丁目ツルヤ猪狩庄平氏と共に市内洋品商の双璧であり今では押しも押されもせぬ紳商だ、四十九才組には三井富吉、井上貞治郎、石島德長、菊田萬吉、大塚鳳三郎、松木德一の諸氏がある

三井さんは四丁目の質屋さんといふより消防の三井さんで通る平組の小頭部長でこの出初式には永年勤續で表彰されることになつてゐる、偉大な体軀と共に消防界で知らない人がない功勞者である、菊田さんは白銀のブリキ屋さんだが同じく消防小頭でこの人も消防では古く今度表彰される、井上貞治郎氏は故井上茂作老の嗣子で磐城建物社長であり、第三小學校保護者會長であり圓満な人格者として知られてゐる、石島德長氏も昨年物故した一德齋翁の嗣子であり平市の貸家王として余りにも有名な存在である、大塚さんは靴と運動具の店で知られる大塚運動具店主人で地方スポーツ界につくしたこの人の功績は相當大きなものがある、市會議員中たゞ一人の卯歳生れは平窪の松本德一氏だ、元郡議の經歴を持ち永く平窪村議をつとめ市政實施後選ばれて市議となつた德望家である、その他四十九才には田町の鳥海菊五郎氏（銀行員）、金子直祐氏（食料品商）などがあり、ずつと下つて大正四年生れの二十四才となれば新田町の姐さん方のうちには少なからずある筈だがこれは余り書き立てぬが花らしいからこの邊でやめておく

「軍歌入都々逸」

勤勞奉仕に凛々しい女房
皇御國の日の本に
女と生れ生ひ立ちし
乙女は妻は又母は
皆一筋にますらをの
銃後を守り花と咲く
モンペ姿の程のよさ

×

資源愛護の國策線に
ふと思へば血が躍る
胸のしるしの日の丸の
われらは日本少國民
われらは日本少國民
坊やもたちまち釘ひろふ

謹賀新年
千里の異郷に新春を迎へ
皆様の御慶福を御祈り致します
昭和十四年元旦
第二司管皇軍慰問演藝團
福島縣皇軍慰問使
中島湖洲
山下八重子
芳賀君子

謹賀新年
（順序不同）
鈴木喜平
吉田平吉
白土德彌
根本莊次郎
星恒明
松村鐵郎
大和田郡司
藤沼平次郎
吉田久雄
鈴木亮
大河内一郎
志賀政光
重田景治

バツカス
平市三丁目
電話七〇二番

謹賀新年

古河炭礦好間礦業所
入山採炭株式會社
磐城炭礦々業所
日曹好間礦業所
石城郡好間村
堀江工業株式會社
平電力株式會社
社長　栗原欣次郎
石城組合銀行
大日本電力平營業所
平運輸株式會社

磐城無盡株式會社
社長　小宅嘉久治
板谷生命平代理店
増田梅藏
電話六二五番
自動車修繕部分品商　佐藤商會
平市南町　電話三八一番
材木商　佐藤三平商店
内郷村小島　電話（平）四三〇番
建築用化粧タイル左官壁材料一式　野内商會
平市南町　電話一一番
酒井伴城商店
平驛前　電話六六一番
大一屋商店
平市二丁目　電話十三番
山崎合名會社
常陽證券平支店
平市三丁目　電話七八四七八五番
石城時計商業組合
組合長　大谷武雄
大塚製靴部
運動具部
大塚鳳三郎
平市田町　電話七七番

友
柴田書店
平市四丁目【電二三四】
三二三屋
齋藤敏美
平市田町　電話三二三
小瀧鑛泉
渡邊渡
石城郡玉川村
土木建築請負業
佐々木健一郎
石城郡江名町
遠藤俊一郎
石城郡江名町
太清左衛門
小名浜町會議員
立花雄七
土木建築請負業
成瀬巴三
石城郡植田町

この前の卯歳

昭和二年の出來事を拾ふ

この前の卯歳と云へば昭和二年だが、今から一昔前の卯歳に平地方にはどんな出來事があつたか、當時の本紙からその主なるものを拾つて見た

一月―

大正天皇の大喪に遭ひ諒闇のうちに新年を迎へた。二日いまは縣議になつてゐる民政派の菜氏がシャモの喧嘩に加はつて動物虐待で書類を送檢された。月初めから不穩の氣漲つてゐた磐城炭礦に遂に爭議起り綴、高坂、小野田各坑の坑夫は廿七日朝からストを敢行、會社側に十五ケ條の要求を提出した。

二月―

磐炭爭議は益々惡化し警官隊と爭議團各所に衝突、また坑夫組合と會社御用團体との間に流血の慘事頻々として起り、九日拂曉百五十名の爭議團員は會社御用團体磐炭會本部を襲撃しその内七十名は收監さる。入山炭礦では十二日突如四十四名の坑夫を解雇した、會社側の爭議警戒團はピストル、仕込銃等を携へ通行の坑夫に暴行を働らき三十數名檢擧さる。十六日磐炭會員三十名が坑夫組合員二名を袋叩きにして檢擧さる。磐炭の爭議は遂に議會の問題となり十七日の本會議で安達内相代理善處を約す。仙臺鑛山監督局、會社側爭議團本部加藤勘十等協議の結果十八日午前八時爭議は急轉して解決、一ケ月に亘る罷業事件もこゝに大團圓。同時に入山炭礦の坑夫解雇問題も納まる。二十五日平町會招集し昭和三年度豫算は二十八萬圓ときまる。二十七日平町詩の會主催で地方最初の文藝講演會開かる、講師は藏原惟人、金子洋文、小堀甚二、葉山嘉樹、山田清三郎、青野季吉など。

三月―

古河炭礦從業員不穩、會社側に十五ケ條の要求提出。二十三日内郷村白水の質商大越五平方に賊入り家族五名のうち二名を慘殺三名に重傷を負はせた事件起る。二十九日磐城炭礦町田坑に坑内火災起り矢島技工以下入坑中の坑夫百四十名が慘死す。慘事が天聽に達し畏くも御内帑金一千圓御下賜の御沙汰を拜す。

四月―

本紙が紙上投票を行つた模擬市會議員當選者發表、最高点は高橋龜松氏。三年越しの大瀧發電所許可取消訴訟事件は六日行政裁判所で結審。十三日入山炭礦に再び爭議勃發、坑夫組合と勞赤井、湯本三工場ゼネストを起す。二十六日白水五人殺し公判平支部に開かれ死刑の判決言渡し。

十一月―

上遠野村在郷軍人會長櫛田彦之進氏は青森、下の關間の騎馬踏破を企て十月三日青森を出發以來五十六日目でこの日二十八日下の關に到着壯擧を完成した。

十二月―

品川白煉瓦の爭議は五日解決。小名濱商港計劃案は今期縣會で滿場一致を以て可決された。

七月―

平、好間間のバス運轉はこの月の二十二日から始まつた。磐女校長櫻井賢文氏小名濱で急死。平機關庫員花澤輝一君は三十日竹馬で富士登山し全國民をアツと云はせた。

八月―

平、江名間バスは七日から運轉料金高久まで四十五錢、江名まで八十錢であつた。

九月―

湯本町品川白煉瓦工場從業員百余名は十日ストライキを起したが十一日に解決。晋選最初の縣會議員選擧は二十五日執行され古川傳一、山崎吉平、鈴木辰三郎、野崎滿藏、若松美三、鷲澤鋒太郎、田子健吉（以上政友）、廣瀬貞、山代吉宗（以上無産）の五氏落選。

十月―

地方經濟金融界の開拓者であつた白井遠平氏は八十二歳の高齢を以て九日逝去、品川白煉瓦平赤井、湯本三工場ゼネストを起す。二十六日白水五人殺し公判平支部に開かれ死刑の判決言渡し。

「軍歌入都々逸」

今度會ふ時ア九段で會はふ
天に代りて不義を討つ
忠勇無双の我兵は
歡呼の聲に送られて
今ぞ出で立つ父母の國
勝たずば生きて歸らじと
誓ふ心の勇ましさ
ニツコリ笑つた赤だすき

謹賀新春

土木建築請負業
中山吉之助
石城郡植田町

磐城海岸軌道株式會社
支配人 西丸猛

磐城水産工業株式會社
支配人 福尾伊太郎

小名濱水産株式會社
小名濱鑛油株式會社

日本水素工業株式會社
小名濱工場

小名濱協同漁業組合
組合長 水野政次郎

江名協同漁業組合長
加澤一造

豐間漁業組合
組合長 遠藤惣三郎

株式會社 平魚市場

蒲鉾製造
折詰仕出し
藤寅蒲鉾店
菊地寅次郎
電話一四一番

平藝妓屋組合

旅館 甲陽館
平驛前 電話一四八番

御旅館 やよひ館
平市白銀町 電話七六番

平市松ケ岡公園
割烹 さわ
電話二五一番

丸仙魚店
平市紺屋町 電話六六二番

湯本驛前［電話五七番］
乘合 貸切 湯本自動車商會

湯本信用無盡株式會社
石城郡湯本町

三井タクシー
平市二丁目

御料理 谷口樓
電話一五六八番

平市二丁目
御料理 越の家
電話三三〇番

御料理
松本樓
平市南町

平市田町
御料理 春の家
電話三一〇番

平市田町
御料理 天ぷら 月廼家
電話三〇四番

壽し 天ぷら 小料理 天竹本店
平市二丁目
電話六七九

鈴木自動車部
和泉屋旅館
平市四丁目 電四一七

平市二丁目
大村屋旅館
電話一七五番

平市二丁目
鶴屋旅館
電話一三三番

紙面を倍版に擴張
各種催し實施
本紙三十九年度の計畫

本紙は事變下言論報導機關の使命愈々重大なるものあるに鑑み昨年十月先づ從來の五號活字を新鑄ポイント活字に改め紙面の刷新と內容の充實を計りましたが、更に讀者並びに廣告主各位の御期待に副ふべく陽春の候を期し紙面を倍大に擴張の計畫を樹て着々準備を進めて居ります而して倍大記念の催しとして本年中に左記の如き諸計畫を實行し地方文化の向上、体育奬勵に微力を致さんとするものであります。幸ひに御期待を賜はらんことを、昭和十四年新春劈頭に當り謹しんで御願ひする次第であります

【紙上廣告展覽會】
四月上旬、平廣告研究會、商工會ならびに市內各商店の御協賛を得て本紙上に新聞廣告コンクールを開催、廣告圖案の向上に資し併せて新聞廣告面の美化刷新を計る

【店員慰安運動會】
商店法實施により休日を與へられたる市內各商店々員諸君二千名の慰安と体位向上を目的に五月の定休日を期し陸上大運動會を開催する

【中等校野球大會】
從來本社に於て主催し來つた濱三郡中等學校野球大會の規模を擴大し地元磐中、平商に配する縣內安積中、若松商ならびに茨城縣下の二强豪を加へ縣下大會の前哨試合を行ふ

【愛國コドモ大會】
出征軍人遺家族慰安の催しとして新秋九月市內四小學校兒童中より選手を出し唱歌、遊戯、童話劇、舞踊公演を行ふ、これは事變終了後も軍人遺家族に對する感謝祭りとして永く主催する

遺家族感謝の調製
四倉の大日章旗
台石も出來上つて元日に再び掲揚式

四倉町の出征軍人遺家族は同町民銃後の赤誠に感謝し併せて武漢陷落を記念するため巾二間、長さ三間の大日章旗を調製、昨年十一月三日鎭守諏訪神社に獻納、掲揚式を擧げたが更に同町鈴木唯治氏の寄附によりコンクリートの掲揚臺を建設中であつたが竣工したので一月元旦午前六時遺家族一同は同社前に集合して大日章旗を掲揚し皇軍の武運長久祈願祭を執行した、尙臺石には漢口陷落記念として出征軍人の氏名と左の如き祈願文を彫刻した

昭和十三年十月二十七日武漢三鎭の陷落を記念し出征軍人名記入の額と巾二間、長さ三間の日章旗を調製し竿を町有林より、臺を鄕土出征軍人慰問記念として鈴木唯治氏の寄附を得、十一月三日壯嚴なる獻納式を擧行し國威の宣揚と出征軍人武運長久を祈り以て帝國をして東亞聯邦の盟主たらんことを祈願す

願主　四倉町出征軍人家族一同

發起者　鈴木常吉、竹永長次郎、長谷川德松、島田善吉、片寄淺治、佐藤幸三郎

「軍歌入都々逸」

針の手がいつか止まつてふと
又樣の
一齊射擊の銃先に
敵の氣力をひるませて
鐵條網もものかはと
躍り越へたる壘上に
立てし譽れの日章旗
いくさ姿が目に浮かぶ

×

腕はくろがね血潮は紅い
拜啓御無沙汰しましたが
僕も益々元氣です
上陸以來今日までの
鐵の兜の彈の痕
自慢ぢやないが見せたいな
金城湯地もあらばこそ

×

今日も勝つたぞ明日も勝つぞ
朝に戰ひ　夕にや陷す
敵の陣地が　その日の寢床
赤い夕陽に
唄もおけさで風呂を焚く
見やれこの腕虫が鳴く

謹賀新年

K.S
合資會社　平銅鐵機械商會
代表社員　井尻七三郎
平市鍛冶町一二（電話五二二番）

平市鎌田町（電話二六六番）
金成自動車部
金成國雅

平鐵工機械工業組合

株式會社　關彰商店平支店

菊地德太郎
平市田町（電二三二番）

愛婦分會長
國婦分會長　安島トシ
石城郡山田村

平消防組

二葉印刷所
主任　吉野熊次郎
主任　吉野耘平
平市仲町　電話一九三番

自動車協會
平支部

小野屋藥店
平市四丁目　電一四四

ハシモトヤ糸店
平市田町　電話一四番

平市古鍛冶町
木澤常松

平市砂糖商
同業組合

石川亭
平市田町　電話四三番

平市白銀町
丸山印刷所

百澤商店
平四　電話一二番

綠川材木店
平市中町　電四四四番

割烹
大貞
平・田町　電四一三番

三井質店
平市四丁目　電六〇六番

丸ほん家具店
丸ほん製作所

織田材木店
平市紺屋町　電四六〇

大平屋藥店
平市一丁目　電六四二番

高橋活版所
平市才槌小路

尼子タクシー
平市二丁目　電六四〇番

東寶映畫
聚樂館
平市一丁目　電四七〇番

藥湯
聚樂園
平市城山　電話一〇九番

平・四倉
乘合自動車部

好間軌道株式會社

平寫眞師會

平西洋料理業組合

平三業保健組合

平料理屋組合

郡山無盡
平出張所

田中宣治
平市新川町　電話五六七番

平製作所
西山惠一
平市堂ノ前　電話四一番

袋屋果物店
平市四丁目　電一一一番

大和錦・花春　發賣元
五十嵐商店

魚清食堂
平市二町目
電話六三三番

小松崎洗張店
平市二町目　電三七九

大野村長
吉田保之助

大野村役場
助役　荒川庸平
牧入役　宮本竹次郎

大野村第一小學校
校長　鈴木龜之助
外職員一同

大野第二小學校
校長　高濱兼惠

鎭泉旅館
藤屋
高木勝太郎
大野村湯之澤

洋物揃ひ豪華版

各館新春映畫プロ案内

春は映畫から―市内三館では三十一日から蓋開けする新春興行番組の編成に頭をしぼつてゐたが左の通り豪華なプログラムが出來上つた、松竹、日活、東寶大都、新興の邦畫五社色彩り彩りの作品に洋物を加へて大いにファンを堪能させやうといふコンタンである、

第一週は世界館と平館で奇しくも猛獸映畫の競映となつたが、前者の『ボルネオ』は古くは『ザンバ』の製作者として知られた密地記錄映畫の第一人者マチン・ヂョンソンの遺作で南洋の奇島ボルネオのルポルタージュであり、平館の『百獸天國』はアフリカの猛獸の生活を描き、これに上野動物園長の古賀さんとラヂオで御馴染の村岡花子女史が解說を加へてゐる、これに對し聚樂館が藝達者マクラグレンの『海の巨人』で挑戰し、世界館が小島政二郎原作の文藝映畫『半處女』平館が千恵藏の『燃ゆる黎明』聚樂館が高田稔の『將軍の孫』を加へ何れも堂々の陣を張り第一週果して何れに凱歌があがるか興味深い、尙從來東寶物專門であつた聚樂館が十四年から大都映畫を添へて下活ファンの吸收を狙つてゐる、

第二週、世界館は新興自慢の三部作のうち『妻の魂』を、平館は小杉勇の『青春の流れ』を、聚樂館は前週に引き續きエンタツ、アチャコの『水戸黃門』を呼び物にしてゐるが流石に第一週ほどの魅力はない、

第三週、聚樂館は未定だが、世界館は清水宏の野心作『按摩と女』を持つてくる、大船ファンには嬉しい贈物であらう、だが三浦では何と云つても平館の『未完成交響樂』が壓卷であらう三八年度輸入映畫傑作の一つであり、ファンはウイリー・フォルストの名演出とマルダ・エゲルト、ハンス・ヤーライの名演技で『オーケストラの少女』以來の感激に浸ることが出來やうといふものである、

各館の番組

第一週―三十一日より四日迄

◎世界館　松竹大船、川崎弘子、三宅邦子、夏川大次郎、佐分利信『半處女』廿世紀フオツクス猛獸記錄映畫『ボルネオ』松竹下加茂、坂東好太郎、伏見直江、藤田研二『男達八百八町』

◎平　館　日活現代劇、瀧口新太郎、橋公子『男の道』三映社提供、村岡花子解說、猛獸記錄映畫『百獸天國』日活時代劇、片岡千恵藏、嵐夕起子『燃ゆる黎明』

◎聚樂館　大都時代劇、藤間林太郎『孝子迷ひ印籠』東寶現代劇、山路ふみ子、河津清三郎『妻の魂』前後篇『松竹下加茂、川浪良太郎、結城一郎『異說旗本五人男』

第二週―五日より九日まで

◎世界館　新興現代劇、山路ふみ子、河津清三郎『妻の魂』前後篇『松竹下加茂、川浪良太郎、結城一郎『異說旗本五人男』

◎平館　日活時代劇、坂東妻三郎『地獄の虫』コロンビア社、テーム・マツコイ『銃彈の挑戰』日活現代劇、小杉勇村田知榮子『青春の流れ』

◎聚樂館　大都時代劇、松山宗三郎、三條輝子『忍術百々地三太夫』東寶現代劇、岸井明、神田千鶴子『虹立つ丘』『水戸黃門』後篇

第三週―十日より十四日迄

◎世界館　松竹大船、高峯三枝子、佐分利信『按摩と女』松竹下加茂、坂東好太郎、千利絲子『長脇差試合』新興現代劇、志賀曉子、美鳩まり『姉ちやん母ちやん』

◎平館　日活現代劇、杉狂兒星玲子『わたし幸福よ』日活時代劇、澤村國太郎、河部五郎、月形龍之介『加賀百萬石』『獨シネアリアンツ社、マルタ・エゲルト、ハンス・ヤーライ『未完成交響樂』

◎聚樂館―未定

謹奉賀戰捷昭和十四年新春

四倉合同運送株式會社　四倉驛前電話二番

保證責任 四倉信用販賣購買利用組合　組合長理事 長谷川儀平

四倉町會議員　……順不同……
植田萬次郎　長谷川長太郎
面川龜之助　佐藤惇司
菅波末吉　鈴木賢二
鈴木幸次郎　長谷川酉次郎
青木公丸　吉田壽三郎
金成岩吉　長谷川寅次郎
豐田美孝　大須賀丑藏
佐藤廣治　菅波康太郎
佐藤熊藏

四倉藝妓屋組合　電話三一番

銘酒「福美」四倉酒店　四倉町仲町　電話一四五番

酩酒しら藤　味噌醬油　醸造元　佐藤仲商店　四倉町　電話四一番

大野村助役　消防組頭　渡邊周平

保證責任 大野信用販賣購買利用組合

保證責任 久之濱信用販賣購買利用組合

四倉町役場助役　長谷川林平

四倉町收入役　遠藤安次郎

四倉町消防組　組頭　金成岩吉

四倉消防組　副組頭　片寄留松

四倉小學校　校長　篠原保治　外職員一同

四倉郵便局　菅波富太郎

大日本國防婦人會　四倉分會　在鄕軍人四倉分會長　本多豊

四倉鶏鳴會長　青木公丸　四倉町原田

四倉町鐵道官舍　佐藤丑五郎

江口清　四倉町原田

四倉理容組合　組合長　猪狩正雄　副組長　佐藤慶次郎

四倉産婆組合　組合長　根本キン　外組員一同

四倉料理屋保健組合

旅館　海氣館　豐田美孝　四倉町　電話五番

福島製氷株式會社　四倉工場　猪狩寅藏

大日本電力株式會社　四倉派出所　電話六番

四倉驛前　鈴木牛乳店　電話一一四番

水野屋本店　長谷川好雄　四倉町本町　電話七番

日本石油特約店　株式會社　關彰商店　四倉支店　驛前　電話四八番

吉田醫院　院長　醫學博士　吉田正　四倉町仲町　電話三三番

額賀醫院　院長　額賀襄　副院長　額賀毅　四倉町　電話四番

西山眼科醫院　西山義意　四倉町本町　電話一五一番

佐藤齒科醫院　新町　電話一四八番

長谷川齒科醫院　仲町　電話一一一番

菅波齒科醫院　本町　電話一五四番

醬油味噌醸造　鱗屋醬油店　四倉町　電話一〇八番

銘酒『奥の松』『花井譽』『大七』　發賣元　大平酒店　四倉町　電話一三五番

全國清酒品評會優等賞受領　銘酒　小錦松本屋酒店　四倉町新町　電六二番

銘酒〝稻妻〟　古川支店　四倉町新町　電一〇番

一品御料理　一心　四倉町　電話七四番

白石屋吳服店　久の濱町　電話九番

日華生命保險株式會社　濱三郡事務所長　東洋海上火災代理店　大谷義隆　四倉町原田

古物問屋　伊本商會　伊本春松　四倉町新町

双葉郡久の濱町役場　町長　新妻定藏　助役　村岡敬一郎　收入役　大須賀熊吉

双葉郡大久村　村長　石川倉吉　外村會議員一同

双葉郡大久消防組　組頭　根本六郎

大浦小學校長　根本喜代一　外職員一同

在鄕軍人大浦分會長　早川雅偉　大浦村仁井田

喪中に付年賀欠禮仕候　四倉町長　新妻盛

喪中に付年賀欠禮仕候　柏屋旅館　小湊　正